

## 本時のねらい

三角形の相似条件を使って、図形の証明をする。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

証明の第1時限のため、まずは自分で証明の流れをひと通り書けるようになることをねらいとし、iPadを使うことで、図形を視覚的に捉え、色を使い、相似な図形をよりの確にとらえる。

流れを穴埋め⇒短答式⇒記述式とすることで、自分の分からないところまでスライドを戻して確認する。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

iPad ロイロノート（アプリケーション）

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の相似条件の確認 ペアで相似条件を読み合う。</li> <li>既習内容の合同の証明の仕方の流れの確認 相似の証明も同じような流れで考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPadでお互いに答えを確認し合う。スライドでの配付により、ペーパーレスと時間短縮を図ることができる。</li> </ul>
展開 (32分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>相似の証明問題を考える。 基本となる手順の確認をする。</li> <li>証明の穴埋め問題を解き、証明の流れを覚えていく。 解答例を確認する。</li> <li>証明の短答問題を解き、考え方の手順を身に付ける。 解答例を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順の確認をアニメーションなど使い確認することで、必要な情報だけの視覚化を図る。</li> <li>解答に色を付け、図形をわかりやすくする。</li> <li>ペーパーレスにつながる。</li> </ul>
まとめ (8分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容の確認のためにチャレンジ問題を解く。 (iPadに問題を写し、ノートに解き、写真を撮って提出) 問題のあとにヒントカードを用意して、手が進まない生徒への支援をおこなう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の内容の到達度を確認する。</li> </ul>

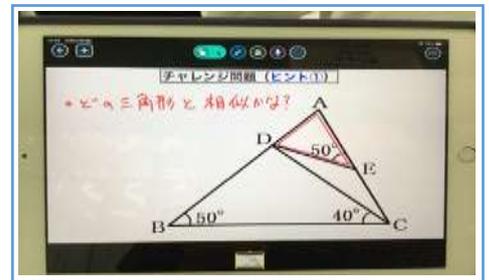
## 1人1台端末を活用した活動の様子



お互いに相似条件を確認し合う



証明の仕方を身に付けるまでに、まずは、真似て書き始める



ヒントカードを提示して取り掛かりを作る

## 児童生徒の反応や変容

- 提出後に、周りの生徒の提出物を自分のiPadで比較しながら見ることができるため、間違いや、よりよい証明の仕方などの違いに多くの生徒が気づくことができた。
- 図形を色分けしながらiPad上で書き分けることで、形を視覚化しやすくなり、証明に取り組み始める生徒が多く見られた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- 1度にすべてのスライドを送るのではなく、数回に分けて送ることで、その時々での、ヒントや必要な情報を生徒個人に提示することができ、より生徒の状況に合った課題提示がしやすいと思います。
- 提出物の全体共有や、比較機能を使うことで、生徒が自分の考えとの比較をしやすくなり、自らの気付きや発見が多くなると思います。